

Vol.77

Vol.77 (2018年冬号)

PMI 日本支部 ニュースレター



Best Practice and Competence / PM事例・知識	3
Activities / 支部活動	27
PM Calendar / PMカレンダー	36
Fact Database / データベース	37
Editor's Note / 編集後記	41



Best Practice and Competence / PM 事例・知識

- ◆【部会紹介シリーズ】 その18 『関西ブランチ 定量的プロジェクトマネジメント事例研究会』 3
 関西ブランチ 定量的プロジェクトマネジメント事例研究会 副代表 山田 知満
- ◆【部会紹介シリーズ】 その19 『関西ブランチ IT上流工程研究会』 5
 関西ブランチ IT上流工程研究会 代表 松井 淳
- ◆【部会紹介シリーズ】 その20 『関西医療プロジェクトマネジメント研究会』 7
 関西医療プロジェクトマネジメント研究会 代表 宮原 勅治
- ◆【部会紹介シリーズ】 その21 『関西ブランチ プロジェクトマネジメント創生研究会』 7
 関西ブランチ プロジェクトマネジメント創生研究会 代表 大西 徹
- ◆PMI Japan Festa 2018 全体報告 9
 PMI Japan Festa 2018 統括PM
 PMI日本支部 セミナープログラム 松本 弘明
- ◆PMI Japan Festa 2018 セミナーレポート 11
 - ・チアリーダー出身プロジェクトマネージャーの苦悩 ～頑張りすぎなくても続けられるように～
 講師：三上 裕子氏 レポート：セミナープログラム 成田 渉
 - ・PDCAをやめて、DLPで行こう！
 講師：酒井 穰氏 レポート：セミナープログラム 玉置 志津
 - ・会議が変わると働き方が変わる ～メンバーの力を最大限に引き出すファシリテーションのツボ～
 講師：榊巻 亮氏 レポート：セミナープログラム 高田 善教
 - ・激動する時代に生き残るリーダーとは ～オールラウンダーエージェントが秘訣を教えます～
 講師：森本 千賀子氏 レポート：セミナープログラム 野々市谷 有里
 - ・世界最強のチーム、“次世代宇宙飛行士”に求められる資質とスキル
 講師：山口 孝夫氏 レポート：セミナープログラム 大島 康宏
 - ・ビジネスの現場でのAI ～Watsonの今とこれから～
 講師：溝渕 浩章氏 レポート：セミナープログラム 鬼束 孝則
 - ・働き方改革成功のカギは社員幸福度の向上
 講師：奥山 由実子氏 レポート：セミナープログラム 鬼束 孝則
 - ・東京芝で国酒を造る！ ～100年の時を超えて復活『東京港醸造』～
 講師：齊藤 俊一氏、寺澤 善実氏 レポート：セミナープログラム 川村 祥二

Activities / 支部活動

- ◆PMI日本支部創立20周年記念イベント 27
 20周年記念イベント・プロジェクト 担当理事 森田 公至
 担当ボランティア(リーダー) 柴田 康広
 担当ボランティア(リーダー) 若山 恭一
- ◆PMI日本支部創立20周年記念出版 30
 20周年記念出版プロジェクト 担当理事 齊藤 学
- ◆PMI日本支部リーダーシップ・ミーティングLM2018 32
 PM コミュニティ活性化委員会 委員長 福本 伸昭
 LM2018 運営チーム・リーダー 伊熊 昭等

PM Calendar / PM カレンダー 36

- ・PMI日本支部関連セミナー等

Fact Database / データベース 37

Editor's Note / 編集後記 41

◆商標等について

「PMI Project Management Institute」とそのロゴおよび「PMP」、「CAPM」、「PMBOK」、「OPM3」、「Quarter Globe Design」は、米国および他の国で登録されているプロジェクトマネジメント協会のマークであり商標です。プロジェクトマネジメント協会のマークの対象リストについては、プロジェクトマネジメント協会の法務部門へお問い合わせください。

「ITIL® (IT Infrastructure Library)」は、英国及び欧州連合各国における英国政府 Cabinet Officeの商標又は登録商標です。

Best Practice and Competence / PM 事例・知識

【部会紹介シリーズ】 その18

■ 関西ブランチ 定量的プロジェクトマネジメント事例研究会

関西ブランチ 定量的プロジェクトマネジメント事例研究会 副代表 山田 知満

■ はじめに

定量的プロジェクトマネジメント事例研究会は、2009年1月にEVM研究会（現IPPM研究会）内のWG（ワーキンググループ）と関西ブランチ内の合同WGとして発足し、活動を開始しました。2012年12月にCCPM研究WGが発足し、現在は2つのWGとして活動を継続しています。IPPM研究会とは、現在も継続してお互いの研究成果や関連情報の共有をするように努めています。

昨年公開されましたPMBOK 第6版では、アード・スケジュール（ES）が正式に掲載されました。プロジェクトのコストと進捗を同時に計測し評価するアード・バリュー・マネジメント（EVM）の理論と実務慣行を拡張したものです。今後、定量的なプロジェクトマネジメントにとってESは必須の手法として普及していくものと思われます。当研究会では、以前からESに関してEVM研究会と一緒に理論や実践手

法に関して研究していました。またその成果をPMI日本フォーラムで発表し、PMI日本支部の会員向けHPで実践ガイドとして公開しています（EVM研究会の成果物『事例から学ぶEVMの実践ガイド』）。

■ 活動方針

2つのWGは、次のような方針で研究テーマを決めて活動しています。

(1) 定量的PM事例研究WG

実際に定量的データがプロジェクトマネジメントに活用されている事例を集めています。データ計測の具体的な実施方法やその手順、マネジメントする上での問題点を明らかにし、研究会メンバーの実務経験をもとにより良い計測方法、統計処理や見える化の手法、予測と制御の手法等プロジェクトマネジメントへの具体的な活用方法をノウハウとしてまとめ公開することを目指しています。

(2) CCPM研究WG

プロジェクト成功に向け、プロジェクト全体のバッファー消費状況を唯一の定量的データとして、今しかるべき手を打つ／打たないを判断するCCPM（クリティカル・チェーン・プロジェクトマネジメント）を研究しています。そもそもCCPMは「人間がよく犯しがちなプロジェクトを遅らせる行動を避けるためには如何にすれば良いか？」から始まってい

図1 EVM指標とES指標の比較

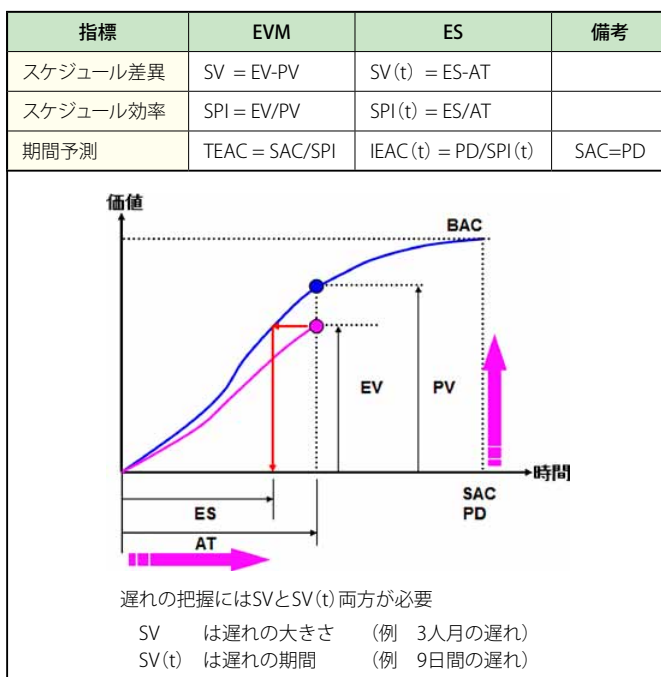
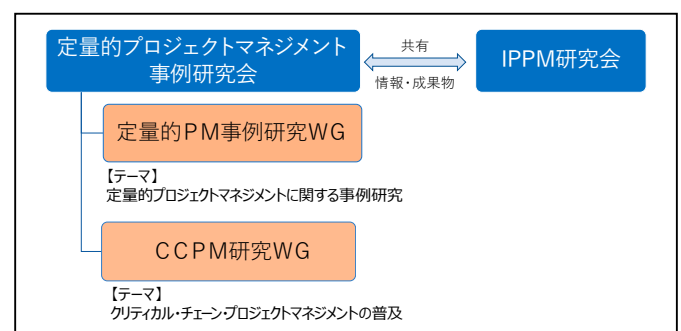


表1 発表論文の分類



Best Practice and Competence / PM事例・知識

■部会紹介シリーズ

ますので、本WGでは、プロジェクトの人間心理やタイムマネジメント手法および、普及方法を研究範囲としています。

■これまでの活動と研究成果

関西ブランチでは、毎年12月に各研究会が活動成果を持ち寄って成果発表会を開催しています。当研究会では、毎年その年度の活動成果を発表しています。また東京で開催されるPMI日本フォーラムでも活動成果を発表しています。研究成果をまとめた『事例から学ぶ品質予測の実践ガイド』を支部会員用HPで公開しています。

■現在の活動内容

大阪の梅田阪急ビルオフィスタワー26Fを活動拠点として、毎月第三金曜日または、第四金曜日の夜に定例会を開催しています。

研究テーマは、定量的なマネジメントに関することだけに限定しません。参加メンバーは、各自が興味・関心のある研究テーマを自由に決めることができます。ある程度進捗した段階で他の参加メンバーに内容を紹介し、質問や意見、アドバイスを受けます。仕事やプライベートの都合を考慮し、自身の自由なペースで研究テーマを進めています。

また定例会では、担当したプロジェクトについての悩み相談や成功/失敗事例、興味深いセミナーの受講報告などプロジェクトマネジメントに関わるさまざまなテーマに関して参加者同士でフレンドリーな雰囲気のもと、自由に議論しています。

定例会での事例発表に関しては、関西ブランチの他の研究会メンバーへも『事例共有会』として参加を呼び掛けています。最近開催し、好評だった事例共有会のタイトルには「南極大陸横断探検隊の事例からリーダー像のあり方を学

年 月	活 動 成 果
2009年 1月	EVM研究会と定量的PM事例研究会の合同WGとして発足
2009年10月	PMI日本フォーラム『SW開発にEVMと品質モデルを適用した事例の紹介』
2010年10月	PMI日本フォーラム『SW開発にEVMとモンテカルロ・シミュレーションを適用した事例紹介』
2011年 7月	PMI日本フォーラム『事例から学ぶEVMの実践ガイド第2版のご紹介』
2012年12月	CCPM研究WG発足
2013年 7月	PMI日本フォーラム『クリティカル・チェーン・プロジェクト・マネージメントの普及』 『Critical Chain Method適用によるプロジェクトマネジメントの革新』
2014年 7月	PMI日本フォーラム『ソフトウェア開発での品質予測の事例紹介』
2015年 7月	PMI日本フォーラム『ソフトウェア開発での品質予測の事例紹介その2』
2015年 7月	PMI日本支部会員用HP公開『事例から学ぶ品質予測の実践ガイド』
2016年12月	関西ブランチ成果発表会『プロジェクトの創造とマネジメントの一提案』
2017年12月	関西ブランチ成果発表会『EVMの基本と実践事例のご紹介』
2018年 7月	PMI日本フォーラム『気づきと刺激を与えるEVMの新しい活用提案』
2018年12月	関西ブランチ成果発表会『ソフト開発以外へのCCPMの活用事例調査』



PMI日本フォーラムでの発表



定例会参加メンバー

■部会紹介シリーズ

ぶ」、「松下幸之助の事例からリーダーのあり方を学ぶ」とか「ニューラルネットワークの基本的なしくみの紹介」などがありました。

■おわりに

近年、AI関連の技術進歩が目覚ましく、人工知能（AI）や機械学習を扱ったプロジェクトも多く行われるようになりました。プロジェクトマネジメントに関わる定量的データも従来の重回帰分析や判別分析だけでなく、機械学習による分析や品質予測なども一部で試みられています。

当研究会では、人工知能（AI）と統計に関する基本的な仕

組みについても参加メンバーと一緒に学び、実務に活用できるノウハウをできるだけ多く集めて公開できるように今後も活動を継続していきたいと思っています。また同じ分野に関心のある他の研究会との合同の勉強会やセミナー等も今後企画していきたいと考えています。

研究会メンバーは通年募集していますので、この分野にご興味・関心のある方はぜひ一緒に活動してみませんか？研究会詳細や参加についての案内は以下のリンク先をご覧ください。
<https://www.pmi-japan.org/session/cat379/quantitative.php>

【部会紹介シリーズ】その19

■関西ブランチ IT上流工程研究会

関西ブランチ IT上流工程研究会 代表 松井 淳

■はじめに

わたしたちは「プロジェクトマネジメント」、「ビジネスアナリシス」、「アーキテクチャデザイン」がそろって初めて、「プロジェクトのビジネス価値を伴う成功」へつながると考えています。よって、これからのプロジェクト・マネジャーはさまざまな専門職人材と協調し、「ビジネス価値を創造するためのプロセス」をマネジメントする必要があります。

当研究会は、超上流に関わるさまざまな専門領域をまたがった研究を通じ、プロジェクトが成功しビジネスに貢献するための原則を提言することを目指しています。プロジェクト・マネジャーを中心に、多様なステークホルダーや他の研究部会と積極的に連携を深め、プロジェクトをより良く実践するための議論や検討をしています。

■これまでの活動と研究成果

これまでの活動を振り返ると、わたしたちがその時々に取り組んできたテーマは、PMBOK®やそれに関連するガイドと同様に進化を重ねてきたと言えるでしょう。発足当初は、上流工程の問題を解決するテクニカルな手法に重点をあてていましたが、ここ数年はそれに加えて次世代の人材モデルやプ

ロジェクトマネジメント・アプローチにも関心を広げています。

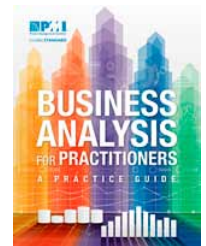
VUCAの時代を迎え、プロジェクトの成功にとってますますビジネスとITのパートナーシップを強化する能力が不可欠となってきました。こうした背景から、今年度は「ビジネス・リレーションシップ・マネジメント」というアプローチを研究し、PMI日本フォーラム2018では、その紹介とプロジェクトに適用するために何をすべきかを提言しました。



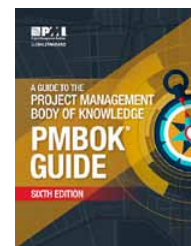
■部会紹介シリーズ

IT上流研のこれまでの研究／講演テーマ

2009年	提案書作成のベストプラクティス
2011年	上流工程のお国事情 ～日本と中国はどう違う？～
2012年	ステークホルダーとの協調連鎖がプロジェクトを成功に導く
2013年	プロジェクトの成功は利用者視点にある
2014年	協調的プロジェクトマネジメントを目指して
2015年	提案型IT人材"ビジネスPMO"が切り拓く新たな付加価値
2016年	プロジェクトマネジメントで切り拓くビジネス価値
2017年	プロジェクトにビジネス価値を浸透させる方法 ～PM現場におけるBA的活動の実践例～
2018年	ビジネス-ITプロバイダーの橋渡しをする新たなプログラム／プロジェクト・マネジャーの期待と役割

2013 PMBOK 5th

2015 BAガイド

2017 PMBOK 6th2017 Agile
プラクティスガイド

■現在の活動

わたしたちの活動内容は、「IT業界のプロジェクト成功率を高め、さらにはビジネス価値を実現することに貢献する」ことを目指し、実際のプロジェクトや組織改革の事例やそこから得た知見を提言としてまとめて世に発信することです。特に来年は関西ブランチ10周年にあたることから、これまでの提言を振り返って「現在もその提言が活きているのか」、「時代にそぐわなくなっているならばどう変えていくべきなのか」を総括したいと考えています。これら提言や総括は、以下の3つのアプローチでまとめていく予定です。

- (1) 世の中の最先端の動きに常にアンテナを張り続け、さらに先を読む

- (2) プロジェクト成功に寄与する原則を発見する
- (3) 広くプロジェクトに適用できるような形で形式知化する

形式知化の手法としては例えば、良いデザインや良い実践の秘訣を共有するための手法として広く使われている「パターン形式」でまとめていくといった取り組みも進めています。下図はパターンマップの一例ですが、今までの提言も含めた体系化を目指しています。

■おわりに

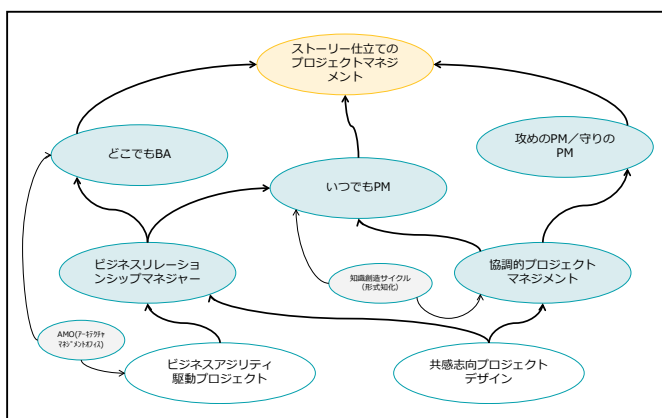
当研究会はプロジェクトマネジメントだけでなく、ビジネスアナリシスやアーキテクチャデザインといった隣接する専門領域における多様なバックグラウンドをもつメンバーとともに、さまざまな領域にまたがった学際的な研究ができるという特徴があります。また、他部会やPMI以外の他団体との交流にも積極的に取り組んでいます。こうした、共創の場を創り上げていくことも、プロジェクトマネジメントの醍醐味と言えるでしょう。

体系的な問題解決アプローチに取り組んでみたい、自分自身の独自のアイデアを膨らませてみたい。そういった方がいらっしゃれば、是非一緒に活動しましょう。

当研究会の活動に興味を持たれた方は、下記リンクにアクセスしお気軽にご連絡ください。

https://www.pmi-japan.org/session/cat379/upper_process.php

パターンの全体マップ



■部会紹介シリーズ

【部会紹介シリーズ】 その20

■ 関西医療プロジェクトマネジメント研究会

関西医療プロジェクトマネジメント研究会 代表 宮原 勅治

今年の研究テーマとして、2つのことに注力して活動してきました。

1つは、医療へのAIの応用についての翻訳本の出版、もう一つは臨床研究・治験領域のプロジェクトマネジメント。

いずれも、進歩はしたのですが、翻訳本の出版は成就せず、時代の変化が読み切れていない結果に終わりました。つまり、「AIの翻訳本を出版しよう」と勇んでプロジェクトを立ち上げ、手分けして翻訳を実行したのですが、今や、そのAI自体が流暢な翻訳を行う時代です。web上でAI翻訳(Google翻訳など)を通して原書(電子書籍)がそのまま読める時代になっており、「AI翻訳のおかげでAIの翻訳本そのものの出版が不要になっていた」というような笑えない結末になってしまいました。

一方、昨年、医療PM研究会が出版した「教育プロジェク

トマネジメント」(大学教育出版)は平成30年11月、電子書籍でも発売されることが決定しました。そうすると、この電子書籍はそのままAI翻訳(Google翻訳)できることになり、世界中の人に読んでいただけることになるわけです。

時代の変化に翻弄されているのは翻訳だけでなく、臨床研究・治験領域のプロジェクトマネジメントも同様で、なかなか明確にならない臨床研究の法的整備やその具体的指針が定まらず、翻弄されながらもなんとか波に乗って研究を進めています。

今後は、さらに医療従事者のキャリアパス形成へのプロジェクトマネジメント応用からポートフォリオマネジメントの応用にまで手を広げて研究していきたいと考えています。もちろん、AIの医療分野での活用に関するプロジェクトも進めて行きます。

【部会紹介シリーズ】 その21

■ 関西ブランチ プロジェクトマネジメント創生研究会

関西ブランチ プロジェクトマネジメント創生研究会 代表 大西 徹

■ どんな研究会？

プロジェクトマネジメント創生研究会は、「PM創生研」とか「創生研」と略して会話することが多いので、ここでは「PM創生研」と表現しますね。

だいたい月1回、土曜日午後集まって定例会を行っています。場所は、大阪、神戸、京都の三都を巡っています。

「関西」に少しこだわりつつ、社会課題に対してどのようなベネフィットを提供できるか？ということを経験のキーワードを拾いつつイノベーションにつなげるための活動を行っています。

■ メンバーは？

20代から60代の男女計20名が参加しています。IT業界(と言ってもさまざまですが)の方が8割ほどいます。

研究会メンバーそれぞれのやりたいことはバラバラです(笑)

いろいろな価値観を持った人が集まっているので当然です。しかし、なんとなくベクトルが合っているんですね。一般的な会社組織などではヒエラルキーな構造でマネジメントされていると思いますが、この研究会では"ゆるく"つながっている感じです。"ティール組織"や"ホラクラシー経営"で言語化された概念がありますが、それに近いと感じています。

Best Practice and Competence / PM事例・知識

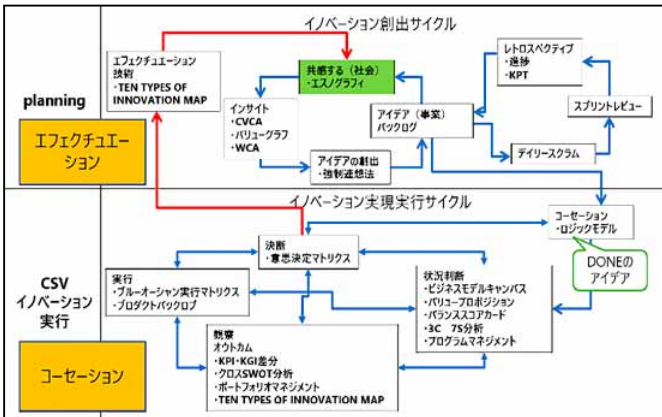
■部会紹介シリーズ

「研究会」という名前から難しそうなイメージを持たれることもあるのですが、ラボラトリーやスタディ・グループではなくラーニング・コミュニティ（学びの場）と言ったほうが実態に合っています。学びの場なので、メンバーが持っている疑問やお悩みを共有して、一歩前に進む力を得られる場だと思っています。あなたのお悩みもぜひ共有してくださいね。

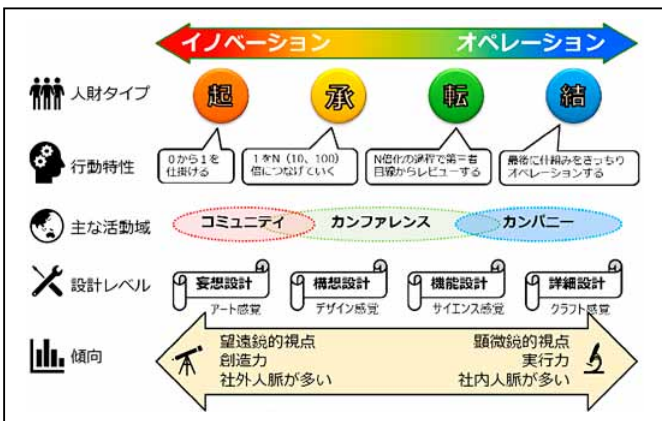
■どんなことをやっている？

PM創生研では2017年から継続的に取り組んでいるテーマがあります。たとえば以下の2点です。

① 「イノベーションプロセスモデル」

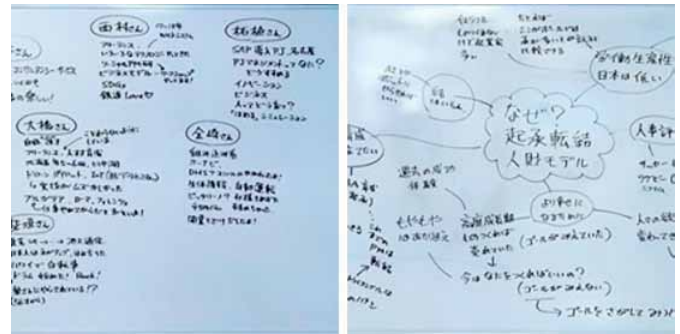


② 「起承転結人財モデル」



両者ともにイノベーションに関わるテーマです。「プロジェクトマネジメントとイノベーションってどう関係しているのだろう？」と疑問に思われた方は、ぜひ当研究会のメンバーにアクセスしてください。

他にも合宿時に出てきた新しいテーマとして、思いつきのアイデア的ですが「関西マインドのブランディング」や「事業組織を創ってみる」などがあります。「なぜそれをやりたいのか？」についてはPM創生研メンバーのアイデンティティなのかなと思っています。



個人が大人の学びを継続していくことがとても大切だと考えています。もっとも学びの効果が高いのは「ひとに教えること」だそうですが。

講演やワークショップを行う練習の場として、ぜひこの研究会を活用してください。さまざまな気づきや経験を得ることができます。ここで得た気づきや経験は、お仕事やプライベートでも生きてきます。

年1回、東京で開催されているPMI日本フォーラムでは研究会から発表を行っています。また他の研究会や外部の方々とも連携しながらさまざまな活動に取り組んでいます。

一度あそびに来てくださいね！

<https://www.pmi-japan.org/session/cat379/sousei.php>



PMI Japan Festa 2018 全体報告

PMI Japan Festa 2018 統括PM

PMI日本支部 セミナープログラム 松本 弘明

2018年10月13日(土)、14日(日)の2日間にわたり、慶応義塾大学日吉キャンパスにおいて、PMI Japan Festa 2018を開催いたしました。FestaはPMI日本支部の部会の一つであるセミナー・プログラムのメンバーが主体となって企画・運営するものです。今年度で11回目となりますが、PMI日本支部創立20周年記念にふさわしい盛大なイベントとなりました。関係者および参加者の皆様、この場を借りて感謝申し上げます。

今年度は「新しい潮流へのチャレンジ ～ 激動する時代にプロジェクト・マネジャーに求められる変化とは?～」というテーマに基づき、各界から12名の講師をお招きし、非常に興味深い内容の講演をいただきました。各講師とも、事前にすり合わせを行ったわけではありませんでしたが、共通のキーワードがちりばめられており、「変化対応力」、「サードプレイス」といった言葉が特に多かったようです。

激動の時代にリーダーは変化にしなやかに対応していく力が求められています。このためには仕事、家庭といった垣根を超えたサードプレイス（ボランティア活動、複業、趣味など）を経験することで、環境変化への対応力を自ら体得していくことが重要だ、といった趣旨の内容の講演が多かったように思います。

なお、講演内容の概要については、セミナー・プログラムのボランティア・スタッフが執筆したセミナーレポートがありますので、当日参加された方はもちろん、参加できなかった方を含めて、次ページ以降を是非ご一読ください。

また、20周年記念プログラムとして、3つの部会によるワークショップも並行トラックで実施しました。半日を使ってじっくりと部会ファシリテーター、受講者同士でディスカッションが行われ、非常に内容の濃い時間となりました。

皆さまからいただいたアンケートの結果から、講演・ワー



受付開始



講演の一コマ



同時中継スタッフ

■PMI Japan Festa 2018 全体報告

クショップの平均満足度は過去11回の中で最も高いものとなりました。また、昨年から実施しているオンライン中継サービスも今年は昨年の1.5倍ほどの申込みがあり、配信品質も高い評価を得られました。オンライン中継サービスは来年も継続して行いますので、遠方にお住まいの方、首都圏にお住まいでも当日のご都合が悪い方は積極的にご参加ください。

Festaにおける重要プログラムである恒例の交流会もパワーアップしてお届けしました。今年はセミナー会場と同じフロアにある協生館ファカルティラウンジで開催し、女性演奏家トリオが奏でる音楽によるおもてなしも加わり、より華やかな雰囲気に包まれました。ゆったりとしたスペースの中、受講者、講師の方々、PMI日本支部理事、ボランティア・スタッフを合わせて約80名による盛況な交流会となりました。

2019年のFestaは同じ会場で11月23日・24日に開催予定ですので、是非参加をご予定くださいますよう、よろしくお願いたします。

また、セミナー・プログラムの活動に興味をお持ちの方は、こちらをご覧ください。

<https://www.pmi-japan.org/session/program/seminar.php>



並行トラックのワークショップ風景



終演後のボランティア一同



交流会の様子

【Festa2018】セミナーレポート (No.2)

■チアリーダー出身プロジェクトマネージャーの苦悩

～ 頑張りすぎなくても続けられるように～

講師：三上 裕子氏

レポート：セミナープログラム 成田 渉

【セミナー概要】

- 開催期日：2018年10月13日(土) 11:45～12:45
- タイトル：チアリーダー出身プロジェクトマネージャーの苦悩、頑張りすぎなくても続けられるように
- 講師：三上 裕子氏
- 講師のプロフィール：

大阪府出身。近畿大学在学中、応援部チアリーダー部で部長を務める。硬式野球部やアメリカンフットボール部等の応援活動を行い、競技選手としては全日本学生チアリーダーディング選手権大会等に出場。

【略歴】

- ・2002年 株式会社住友金属システムソリューションズ(現 キヤノンITソリューションズ株式会社)に入社。主に保険業務のSIプロジェクトを手掛ける。
- ・2009年 「社長賞 上期個人功績賞」を受賞。
- ・2015年 「キヤノンマーケティングジャパングループ Excellent Award 『No.1 プロフェッショナル賞』」を受賞。
- ・2018年 日経 xTECH「女性ITリーダーの奮闘」に記事掲載。
- ・数人～100人規模のプロジェクトを経験し、現在は、これまでに培ったプロジェクト運営ノウハウを活かして顧客先でPMO業務に従事



【はじめに】

講演の1枚目のスライドは私が三上様を知った記事の紹介でした。

講演の中でもお話しされた通り、私はその記事を見て「Festaで講演いただきたい」と直感しました。

講演を依頼する最初の打ち合わせでは彼女の上司が同席され、本当に講演ができるのか悩んでおられたようです。

そしてまだハプニング。紹介動画を事前配信する目的で、講演約1ヶ月前のお忙しい中でインタビューさせていただいたにも関わらず、当方の操作ミスで動画がすべて消えてしまいました。どうしよう、「もう講演なんか引き受けない」なんて言われてしまうか…と心配しながらお詫びを入れると、撮り直ししても良いと暖かいご返事をいただきました。結果的には日程が合わず、撮り直しすることはなりませんでしたが、常に前向きな方という印象をここでも受けました。

そうこうしている間に講演日がやってきました。

【講演の内容】

講演での冒頭の言葉は、「講演が面白くなくても、それは私を選んだ事務局(=筆者)が悪いんです!」。

私はFestaや月例セミナーでこれまで何人も講師をご紹介・登壇いただきましたが、これは初めての経験でびっくりしました。しかし、講演に入るとハッキリした口調でこれまでのPM経験談を事例も交えながら楽しく・わかり易くお話しいただきました。

まず、リーダーという信念はチアリーダー部で部長を務めた大学生活で芽生え、4年生の最後には親友である副部長と支え合いながら下級生を引っ張ってきた話から始まりました。

その後社会人となり、最初はPMを支える立場でプロジェクト・メンバーとして活躍してきたとのこと。

ユーザーに嫌なことを言われたり、急な転勤、出張などを命じられたりと、さまざまな困難を乗り越えた結果、社長賞をもらうに至ったというお話をさせていただきました。

■ PMI Japan Festa 2018 セミナーレポート

特に女性PMとして色々とお話されたお話には説得力がありました。同じ女性として共感できることが多く、憧れにもなった女性がいたのではないのでしょうか。部下に女性を持つ男性社員にもとても参考になったと思います。

今回の講演のために、彼女は過去の上司にわざわざ「当時の自分はどう思われていたのか」を聞きに行ったそうです。そしてその話を講演の中で紹介して下さいました。

また、疲れ切った中でスペインへ旅行に行ったという話もありました。訪ねた先は親友である、チアリーダー部のあの副部長であったようです。本当に心が通った同志だったのだと感じました。

緊張の中にも和みを感じられる1時間の講演が無事終わり、その後の交流会でも名刺交換には長蛇の列ができていました。

【講師担当余話】

やはり、三上様に講演を依頼して良かったと改めて思っています。

これまでは確かに会社の社長、ビッグプロジェクトを遂行したPMなど、華々しい実績を有する講師をたくさんご紹介してきました。

有名でもない、大きなプロジェクトでもないが必死に頑張っているPMは世の中には一杯いるんだ、ということを実際にスレートにそして、しなやかに語っていただいた1時間でした。

三上様、本当にありがとうございました。



【Festa2018】セミナーレポート (No.3)

■PDCAをやめて、DLPで行こう！

講師：酒井 稜 氏

レポート：セミナープログラム 玉置 志津

【セミナー概要】

□開催期日：2018年10月13日(土) 14:15～15:15

□タイトル：PDCAをやめて、DLPで行こう！

□講師：酒井 稜 氏

□講師のプロフィール：

株式会社steekstok代表取締役CEO、株式会社リクス創業者副社長CSO、新潟薬科大学・客員教授、NPOカタリバ理事、介護メディアKAIGO LAB編集長・主筆。

1972年東京生まれ。慶應義塾大学工学部卒業、オランダTilburg大学MBA首席卒業。商社勤務後、エンジニアとしてオランダの精密機械メーカーに転職し、およそ9年間をエンジニアとして過ごす。2009年に帰国し、上場IT企業にて取締役などを歴任。東日本大震災をきっかけとして独立し、現在は、新事業開発コンサルとして活動しつつ、自らも複数社の起業に経営者として、また投資家として関わる。著書は20冊を超え、特許も複数出願・権利化されている。年間の講演回数も50回を超える。



【はじめに】

筆者は、10年近く前に「はじめての課長の教科書」で酒井様を知り、講演を聴講したことがあります。聴く者を引き

付けて離さない語り、あとの予定がないからと1時間以上続いた質疑応答と、非常に印象的な講演でした。

その時から、いつかFestaへご登壇いただきたいと思っていました。ずいぶん時間がかかってしまいましたが、ようやく実現できて喜びもひとしおです。当時から主に人材育成の世界で活躍しておられましたが、最近では特に、介護業界の人材育成を活躍の舞台とされている酒井様が、どんな新たな世界を見せてくださるのか、実は筆者が一番楽しみにしていました。

【講演内容】

講演は、日本における働き方改革の解説から始まりました。少子高齢化による労働力減少は、現代の黒船(国難)であること、労働力が減少するのであれば、生産性向上は避けて通れないこと、つまり、働き方改革とは、イコール、生産性の向上と解釈する必要があります。

「生産性向上」は昔からよく、目標として掲げられる言葉ではありますが、酒井様はなかなか皮肉な表現をなさいます。組織内の業務は、善意により、高度化(複雑化)される運命だと。日々の自分や周囲の仕事に置き換えて考えると、非常に納得のいく、しかし、痛いお言葉でした。

我々が普段の仕事で意識しがちな、今あるもののQCDをよりよくしていこうという考え方は、それは誤ったものではありません。そのための、PDCAの考え方も重要です。しかし、社会のボトルネックが大きく変動するような今の時代では、それだけでは全体的な生産性は向上しません。今の時代は、モノを大量に作って流通させる前の段階、社会の課題に対する有効な解決策を生み出すための生産性を向上させる必要があるのです。そして、そのためには、PDCAではない、新しいアプローチが必要、ということで、ようやく、講演タイトルにある「DLP」が登場しました。

実は、タイトルの「DLP」については、事前に公表した講演概要では触れられておりません。講師担当の筆者としては、必ず問合せが来るであろうと考え、「あらかじめ説明を

■PMI Japan Festa 2018 セミナーレポート

入れておきませんか?」と提案しました。しかし酒井様からは、ぜひ前提知識なしで講演に臨んでほしいとのご要望があり、あえて伏せた経緯があります。そのため、ほとんどの受講者の方は、ここで初めて、成果物を定義できない場合のボトルネック解消法：Do Learn Prototypeに触れられたことと思います。

DLPの考え方に加え、このDLPを用いて社会課題を解決につなげるための、ハートの部分、「当事者意識の醸成」についても語られました。「私」は、どんな問題に怒り（義憤）を覚え、だからその問題をどう解決していくのか。そういった意識が、自分の課題のスタートになります。そして、この、当事者意識を背景とした行動量が、現代の生産性向上には不可欠なのです。

よく勉強する、でも勉強したスキルを何に使うのか、どこに向けるのかを考えてほしい、という酒井様のメッセージは、積極的に学ぶ姿勢をお持ちの受講者の皆様に対し、次のアクションを促す力強い言葉となったと思います。

【講師担当余話】

講演後の質疑応答では、酒井様の熱い語りに巻き込まれたかのように、質問の手がいくつも上がりました。過去の講演で質疑応答が1時間以上も続いた現場を知っている筆者としては、喜び半面、ドキドキでした。

ところが、いただいた質問がとても的を射たもので、講演の中には出てこなかった「依存先の分散」という言葉がここで飛び出し、非常に良かったと思いました。酒井様と会場が一体となったすばらしい講演になったと思っています。



【Festa2018】セミナーレポート (No.4)

■ 会議が変わると働き方が変わる

～メンバーの力を最大限に引き出すファシリテーションのツボ～

講師：榎巻亮氏

レポート：セミナープログラム 高田善教

【セミナー概要】

- 開催期日：2018年10月13日(土) 15:30～16:30
- タイトル：会議が変わると働き方が変わる
～メンバーの力を最大限に引き出すファシリテーションのツボ～
- 講師：榎巻亮氏
- 講師のプロフィール：
 - ・ケンブリッジ・テクノロジー・パートナーズ株式会社 ディレクター

大学卒業後、大手企業に入社。社内の業務改善活動に携わり、改革をやり遂げる大変さ、現場を巻き込み納得感を引き出すことの大事さを痛感する。ケンブリッジ入社後は「現場を変えられるコンサルタント」を目指し、幅広い業界で業務改革プロジェクトに参画。ファシリテーションを活かした納得感のあるプロジェクト推進を得意としている。一級建築士。主な著書に、「業務改革の教科書」(日本経済新聞出版社)、「世界で一番やさしい会議の教科書」(日経BP社)、「抵抗勢力との向き合い方」(日経BP社)、「世界で一番やさしい会議の教科書 実践編」(日経BP社)。



【はじめに】

現在、「働き方改革」が叫ばれていますが、多くの企業で実施されているのは単なる残業カットの掛け声ばかり。本来求められている「働き方を変える」という本質的な施策が打ち出せない組織が少なくありません。そのような背景から、会議を変えて業務の生産性を上げて働き方改革に結ぶというテーマでの講演をお願いします。

【講演内容】

試算によると、一人の人間が在職中に職場で会議に費やす時間は約8年にのぼるとのこと。これだけの時間をかけているにもかかわらず、日本の多くの会社では、「何が決まったかよくわからない」、「そもそも会議に意味があるのか」などの感想を持つ人が多いのが実態だそうです。8年もの間、不愉快な思いをしながら過ごすことほど無駄な時間の過ごし方はない、というお話をいただきました。

会議を有意義なものにするためには基本的なことをしっかりとやる必要があるとのことで、8つの基本動作のうち「終了条件を決める」、「決まったこと、やるべきことを確認する」の2点について説明がありました。

まず1点目の「終了条件を決める」とは、会議の冒頭に「何がどのような状態になればよいか」を確認することです。到着点がわからないまま議論を進めても、参加者それぞれが好き勝手に話してしまい、まとまりがつかなくなります。そのため会議の冒頭にはかならず終了条件を決める必要があります。注意しなければならないのは、会議が終わった時点で「どのような状態になってほしいか」を具体的に決めます。決して「課題について議論すること」、「情報を共有すること」など、「・・・すること」を終了条件にははいけません。

2点目の「決まったこと、やるべきことを確認する」とは、会議の最後に、決定事項と宿題についてひとつずつ声に出して確認することです。一般的な会議では、後日議事録がメールで回覧されることが多いのですが、その場で確認しないと

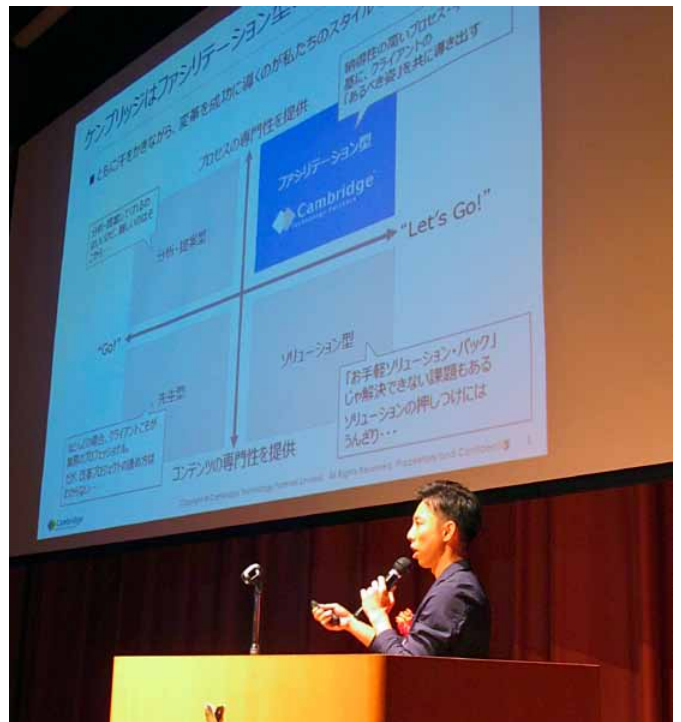
■PMI Japan Festa 2018 セミナーレポート

「私はそんなこと言ってないよ」、「それはそっちの仕事だろ」といったことになり、せっかく会議で議論しても実行力を伴わないということが起きてしまいます。そのようなことにならないようにするためには、会議中に確認することが必要です。自分の意図が相手に正しく伝わっていなかったり、相手の意図を汲み取り違えたりということはよくあることです。その状態のまま散会してしまうと、「あの人は何も聞いていない」、「私はそんなこと言っていない」といったことになってしまうでしょう。そのようなことにならないよう、会議の最後には確認が必要です。

【講師担当余話】

予告動画撮影のため榊巻様の会社を訪問した時、オフィスのあちらこちらで会議が行われていました。若手の方がファシリテーターをしていたり、みんなでひとつのフリップボードを見ていたり、榊巻さんに講演いただいた内容を、あたりまえのように実践されている様子でした。会議に参加している人たちの中には退屈そうにしていたり、無関心な様子をしていたりする人は一人もいません。「さすが」と感じずにはいられませんでした。

また、事前に計画していたインタビューを終えた後も、私からの個人的な疑問・質問にお答えいただき、さながら個別相談会のような場になりました。その中で榊巻さん自身の多くの成功・失敗体験を交えて1時間ほど熱いトークをお聴かせいただくなど貴重な時間を持つことができました。榊巻様ありがとうございました。



【Festa2018】セミナーレポート (No.5)

■ 激動する時代に生き残るリーダーとは ～オールラウンダーエージェントが秘訣を教えます～

講師：森本 千賀子 氏

レポート：セミナープログラム 野々市谷 有里

【セミナー概要】

- 開催期日：2018年10月13日(土) 16:45～17:45
 - タイトル：激動する時代に生き残るリーダーとは ～オールラウンダーエージェントが秘訣を教えます～
 - 講師：森本 千賀子 氏
 - 講師のプロフィール：
 - 1970年生まれ。獨協大学外国語学部英語学科卒
 - 1993年現リクルートキャリアに入社。転職エージェントとして、約3万名超の転職希望者と接点を持ち、約2,000名超の転職に携わる。
 - 2017年3月に株式会社morich設立し兼業の末、10月に独立、現職。
- 現在は、NPOの理事や複数の社外取締役や顧問なども歴任。



【はじめに】

あれは2012年夏、筆者自身が今後の自分のキャリアに不安を感じつつも、当時まだ小学生と保育園児だった子供を抱え日々の仕事をこなすだけで精一杯、ワーキングマザーっていつも時間がない、体力的にも大変、もう限界、、そんな風に思っていた時に、たまたまテレビで見かけたのが森本千賀

子様でした。NHKの「プロフェッショナル仕事の流儀」、その有名な番組に出演されてプロフェッショナルとしてキラキラと輝くお姿は、素敵なお先輩像として深く私の心の中に刻まれていました。

そして今年、たまたま購読しているメールマガジンで女性向けキャリアセミナーに森本様が講演されるのを知り、「ぜひ一度直接お話を聞いてみたい！」という一心で講演を申し込みました。

当日の講演時間は平日の夜。朝のうちに家族の夕食を用意して出社し、業務中はお昼休みも取れないほど忙しく、「やっぱり疲れているから、今夜セミナーに行くのはやめようかな」という気持ちがよぎったものの、最後の力を振り絞って参加しました。すると、疲れていた気持ちが吹っ飛び、思いがけずたくさんのエネルギーをいただいた、そんな素晴らしい講演でした。この内容は、女性だけではなく、プロジェクト・マネジャーの皆さんにも響くはずだ！と直感した私は、交流会で名刺交換をさせていただきました。そして早速コンタクトしようと思っていたところ、なんと森本様の方からセミナー参加のお礼のメールを先にいただいてしまったのです。その丁寧で早い対応にとっても感動したのは言うまでもありません。そして、Festa 2018のご講演が実現しました。

【講演の内容】

25年前、終身雇用が当たり前の日本においては、「転職」というと、まだまだネガティブな印象が強い時代でした。それが今や、リスクを取らないのが最大のリスク、転職することは一つの「選択肢」となっています。

女性だったら「永久就職」を選択できた時代はほぼ終わりを迎え、男女共にキャリア開発を自己責任で行う時代となりました。では、自分の価値を高めるための戦略とは何でしょうか？

ずばり、それはマイノリティ戦略です。男女ともに「専門性X経営目線(事業目線)」があれば、敵の多いレッドオーシャ

■PMI Japan Festa 2018 セミナーレポート

ンではなく、ゆったりとしたブルーオーシャンで活躍することが可能となります。

別の視点では、「求められる人」になることが重要です。では、今、「求められる人」とはどんな人材でしょうか？

求められる人材になるためには、「変化対応力」を身につけること、そのためには新しいこと・身の丈よりも少し上のことにチャレンジすることが大切です。チャレンジできる環境はいろいろありますが、会社員だと制約も多いもの。そこでお勧めなのが、「パラレル・キャリア」を持つこと。本業である目の前の仕事をしっかりとこなしつつ、2枚目3枚目の名刺をもつ、そんなアドバイスを、森本様には次から次へとテンポよくお話しいただきました。

日々新しいことにチャレンジし、忙しい毎日を送られている森本様の育児って？どうやってお子さんたちとの時間を確保しているのだろう、と疑問に思う方もいらっしゃるかもしれませんが（私もその一人でした）。それについては、人生を前向きに生きている、仕事を楽しんでいる、その大人の背中を見せる事が母親としてのミッションである、という明快な答えをいただきました。

人生は自分で創れる、変えられる。「キツクXウゴク=カワル」。さあ、明日から何か少し上のことにチャレンジしてみよう！そんな前向きな気持ちになれるご講演でした。

【講師担当余話】

憧れの人と直接会話できる！それがセミナープログラムでイベントの企画・運営のボランティアをしている醍醐味だなぁと改めて思った、森本様のご講演企画でした。



1日目最後の講演時間だったため、終了と同時に交流会会場へ。小柄で細身のお身体のどこからそれだけのパワーが出てくるのか、本当にびっくりするほど、交流会の最中も周りの参加者を魅了し、お話の花を咲かせていらっしゃいました。

そして最後は森本様の提案で、皆で記念撮影を行いました。「せーの、モリチー！」の掛け声で、素敵な笑顔の一枚となりました。



森本様、本当にありがとうございました。

■PMI Japan Festa 2018 セミナーレポート

【Festa2018】セミナーレポート (No.6)

■世界最強のチーム、“次世代宇宙飛行士”に求められる資質とスキル

講師：山口孝夫氏

レポート：セミナープログラム 大島康宏

【セミナー概要】

- 開催期日：2018年10月14日(日) 9:30～10:30
- タイトル：世界最強のチーム、“次世代宇宙飛行士”に求められる資質とスキル
- 講師：山口孝夫氏
- 講師のプロフィール：
有人宇宙システム株式会社
有人宇宙技術部主幹 博士（心理学）

【略歴】

- 1957年4月 神奈川県生まれ。
- 1980年3月 日本大学理工学部機械工学科航空宇宙工学コースを卒業。その後、日本大学大学院文学研究科心理学専攻博士前期/後期課程にて心理学を学び、博士号（心理学）取得。
- 1987年4月 宇宙航空研究開発機構（当時は、宇宙開発事業団）に入社。入社以来一貫して、国際宇宙ステーション計画に従事。「きぼう」日本実験棟の開発及び運用、宇宙飛行士選抜及び訓練、そして宇宙実験を担当。
- 2018年3月 宇宙航空研究開発機構を定年退職。
- 2018年4月 有人宇宙システム株式会社に入社。民間訓練を担当している。



著書に、「生命を預かる人になる」、「宇宙飛行士の採用基準」、「宇宙飛行士だけが知っている 最強のチームの作り方」などがある。

【はじめに】

近い将来、人類が火星へ向けて出発する日が来ます。宇宙という非日常かつ壮大なことに挑戦するというところに、心踊らされる方も多くいらっしゃるのではないのでしょうか。Festa2018のテーマになっている新しいチャレンジに相応しい内容と言えます。

人類が月に行くのと、火星に行くのとでは、宇宙飛行士に求められるものとして何が異なるのでしょうか。以下の講演に含まれる項目から、その違いを紐解いて行きます。

- 宇宙飛行士の採用と育成
- 宇宙飛行士は常にチーム行動
- 次世代宇宙飛行士に求められる資質とスキル

【講演内容】

宇宙飛行士を採用する側は、その人の人生を引き受ける覚悟が必要です。1年以上かけて採用試験に合格してもまだ宇宙飛行士候補者です。そこから宇宙に行くまで長い期間の訓練を受け続けることとなります。古川飛行士の場合は10年以上もそんな日々が続きました。

長い訓練に耐え、宇宙でのミッションを確実に遂行できる人を選抜します。選抜には、妥当性と信頼性、そして公平性が必要になるため、特定の強い意見に左右されないように、明確な採用基準を作成します。平成21年の油井、大西、金井飛行士が選ばれたときも、応募者、試験官の誰もが納得する結果となりました。

訓練で一番大切にしていることは、チーム行動の大切さを知ることです。活動は全てチームで行われます。選抜時はほとんどの方が、宇宙への自身の夢を語りますが、それだけでは、長い訓練を乗り切るとは困難です。したがって、「私

■PMI Japan Festa 2018 セミナーレポート

達は人類のために、仲間のために宇宙に行くのだ」というモチベーションに変えていきます。そうすることで、訓練を乗り切って高いパフォーマンスを発揮することができるようになります。

次世代宇宙飛行士として、火星という未知の領域に向かっていくとき、ネックとなるのは、期間が長期化するということです。火星までは6～9ヶ月の道のりで、実験を終えて帰ってくるまで3～5年地球を離れることになります。国際宇宙ステーションの場合は、地球から指示ができますが、火星に行くともうそういうことが難しくなるので、チームで考えて行動するということが求められます。

求められるスキルとしては、半分は通常のビジネスに求められるものと同じです。未知の環境への適応力や、タスクを自分がやるべきものとして捉えることができる心理的オーナーシップなどが必要となります。

最後に、どうしたら自律的なチーム運営ができるか。リーダーが全てを把握して、みんなを引っ張って火星に行くのは不可能なので、分野によってはフォロワーとなって任せる勇氣、信頼、覚悟が必要になります。何故火星に行くかという最上位の理由を共有し、それぞれが得意な分野でリーダーとなる必要があるのです。

【講師担当余話】

事前にインタビューさせていただいた時に、採用試験応募者から、職場の上司と家族からの推薦の手紙を受け取るとのことでした。上司からの手紙では、そつない内容が書いてあることもあれば、優秀な人物なので本当は手放したくないが、本人の夢なので個人的には応援するなど、その手紙から人柄がわかるとのことでした。そして家族からの手紙は、ラブレターのようなもので、普段家庭でどのようなコミュニケーションをとっているかが垣間見ることができるとのお話でした。



【Festa2018】 セミナーレポート (No.8)

■ ビジネスの現場でのAI ～ Watsonの今とこれから～

講師：溝渕 浩章 氏

レポート：セミナープログラム 鬼束 孝則

【セミナー概要】

□開催期日：2018年10月14日(日) 13:00～14:00

□タイトル：ビジネスの現場でのAI

～ Watsonの今とこれから～

□講師：溝渕 浩章 氏

□講師のプロフィール：

- ・日本アイ・ビー・エム株式会社
- ・ワトソン&クラウドプラットフォーム事業部, SW Service Watson Delivery 部長

1990年より日本アイ・ビー・エム(株)入社。主にメディア&エンタテインメント関連のお客さまのシステムデザイン、構築、SIプロジェクトに携わる。1992年から日本野球機構の公式記録をデジタル化し球場からの入力、集計、チェックしマスメディアに向けて検索、配信するシステムを構築、運用。1999年にはインターネット経由でチケットを購入できる最初のインターネットチケットシステムシステムの構築、2002年から地上波デジタル化に向けた民放キー局のシステム再構築に携わるなど、数多くのメディア&エンタテインメント企業のシステム構築や運用などで実績を残す。2011年渡米し米国アイ・ビー・エムのプロジェクトに携わった後、2016

年よりワトソン事業部に異動。AI社内技術コミュニティ立ち上げ・運営、Watsonに関する事例、論文、文献等の翻訳、レビュー、社内外向けWatsonセミナー講師などを実施するチームのリーダーとなる。2018年7月よりWatson APIを使ったプロジェクトを実施する部門に異動。

【はじめに】

昨今 AI が大きく注目され、AI という言葉を耳にしない日がないほど社会的なムーブメントを引き起こしています。では、その AI についてはどの程度の知識があるのかと問われると、しっかりと答えられる人は僅かなのではないのでしょうか。これまでは携わってなくとも、会社やお客様の要請により、プロジェクト・マネジャーはいつ何時AIのプロジェクトを任されるか分かりません。

そこで、AIの代表格として位置づけられている IBM の Watson について、この分野のエキスパートである日本アイ・ビー・エムの溝渕様にその真髄を講演いただくこととなりました。

AIが得意とする分野や今後の方向性について、実働するユースケースを基にWatsonを紹介いただき、いざAIプロジェクトを任された時に有益となる知識やノウハウを共有いただきました。

【講演内容】

この講演では以下の項目を軸にご説明いただきました。

- ・そもそも AI とは何か
- ・ユースケースからみる Watson の適用パターン
- ・Watson API 最新アップデート
- ・Watson プロジェクトの進め方
- ・今後の方向性

講演は実際にAIをビジネスでどのように適用しているかを実務者観点で丁寧にご説明いただきました。講演の最初



■ PMI Japan Festa 2018 セミナーレポート

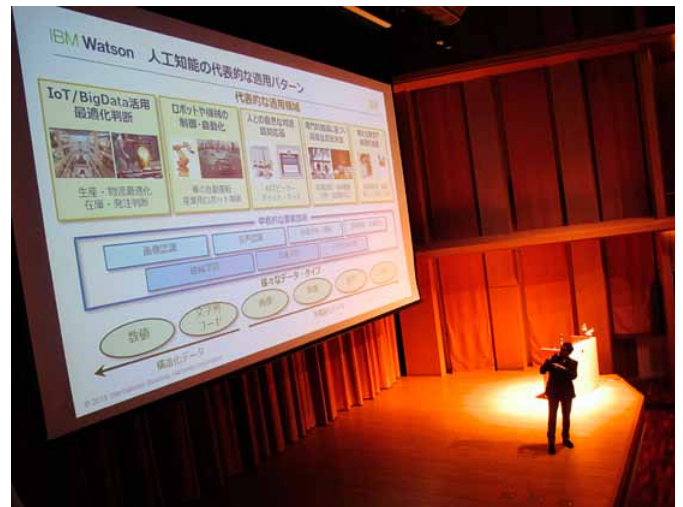
の段階でAIの適用範囲について、「顧客接点」、「業務プロセス」、「新サービスと製品」に別けて紹介いただいたことにより、より理解度が深まった印象を受けました。またアバターをインターフェースにしたチャットシステムなどAIの活用が私達の想像以上に進化してきていることを実感することになりました。

さらにプロジェクト・マネジャー視点で嬉しかったのは、AIプロジェクトを進めるうえでのステップや標準的な開発プロセスをご紹介いただいた点で、この部分を知ることができたことは参加者の皆さんに大きな持ち帰り感を抱かせたのではないかと振り返っています。

ご講演いただいた溝渕様、溝渕様を紹介いただいたセミナープログラム野々市谷さんの丁寧な準備に深く感謝いたします。

【講師担当余話】

講演いただいた溝渕様は野々市谷さん（写真左）と同じ部署とのことで、事前のやりとりはとてもスムーズに運ぶことが出来ました。気さくな溝渕様と野々市谷さんのやりとりを聞いていると IBM Watson の自由な発想や明るい未来を肌で感じる事が出来ました。



【Festa2018】セミナーレポート (No.9)

■ 働き方改革成功のカギは社員幸福度の向上

講師：奥山 由実子氏

レポート：セミナープログラム 鬼束 孝則

【セミナー概要】

- 開催期日：2018年10月14日(日) 14:15～15:15
- タイトル：働き方改革成功のカギは社員幸福度の向上
- 講師：奥山 由実子氏
- 講師のプロフィール：
 - ・株式会社カルチャリア 代表取締役社長

東京、浅草出身。1993年ニューヨークへ渡米。同年、米国に人事コンサルティング会社（本社・ニューヨーク）を設立。以来、2500以上にのぼる在米日本企業、日本国内の企業に社員研修や人材育成のためのプロジェクトを提言。日本企業としての独自性を尊重しながら、世界標準の人事システムの導入を推進してきた。2006年6月、東京に株式会社イマジ

■PMI Japan Festa 2018 セミナーレポート

ナを設立。人事改革と企業ブランディングを行い売却。そして、2017年、加速する日本のグローバル化と、その中で求められる職場環境改善に使命を感じ、【社員のしあわせをデザインする】をコンセプトにした働き方改革を実践する株式会社カルチャリアを設立。ニューヨークでの最初の起業時からの夢でもあった、日本企業の働き方を変えるための多種多様なプロジェクトを提供している。



【はじめに】

働き方改革が目指される中、社会で取り組まれている施策は本当に本質をついたものなのだろうか？ 会社としての体裁を意識した表面的なパフォーマンスに留まっていないだろうか？ そんな気持ちから国内外で豊富な人事改革の実績を持つ人事のプロフェッショナルである奥山様へ講演を打診しました。

これまでの日本では長時間働くことによる成果を美徳化する傾向があり、効率的な働き方に対して楽をしているという見方をされることがありました。残業は当たり前で残業することを前提とした仕事の割り振りが常態化し、結果として定時では帰りづらいという雰囲気が職場に漂うだけでなく、手当を目的とした残業が生まれるなど悪循環になっていました。

それでは目指すべき働き方とはどのようなものなのでしょうか？ また欧米での働き方は日本とどのように違い、日本が参考とすべきものはあるのでしょうか？

今回の講演では奥山様のご経験から組織やプロジェクトに活かせる働き方について講演いただきました。

【講演内容】

講演については以下のアジェンダで進められました。

- クイズ「このオフィスはどの会社？」
- 社内をみれば、生き残り指数が丸見え！
- 生き残り企業の労働時間と生産性
- ワークライフインテグレーションの時代
- 働き方改革のカギは社員幸福度だ

講演冒頭に会場の参加者に向けてオフィスの雰囲気に関する質問が投げかけられ、たちまちのうちに参加者との一体感が生まれる中、「仕事」あるいは「私生活」のバランスを保たせる『ワークライフバランス』から、「私生活」、「仕事」、「生き甲斐」、「コミュニティ」など個人の生き方そのものを1つのものとしてとらえる『ワークライフインテグレーション』へ思考変換が必要だと提唱され、講演は核心部分へ誘われていきました。

そして中心となるのは社員幸福度で、幸福度を高めるホルモンであるセロトニンが腸で作られること、2分間のスーパーマンやワンダーウーマンのポーズが効果的で、人の習慣を変えるのに必要な日数は21日であることなど、具体的な行動の説明がありました。

受講された参加者の皆さんはきっと自宅で仁王立ちになっていることを想像させるユニークかつ、今後活かせる貴重な内容でした。



■PMI Japan Festa 2018 セミナーレポート

【講師担当余話】

講演後には、会場のコンコースでの参加者との名刺交換、スタッフとの写真撮影に気さくに応じていただきました。

快活でスタイリッシュな奥山様に参加者から「元気が出ました」との多くの声をいただきました。

奥山様の講演を担当した筆者としては、今回の講演を聴講された方々と共に元気な日本作りに少しでも貢献出来ていればと願う次第です。

奥山様、本当にありがとうございました。



【Festa2018】セミナーレポート (No.10)

■東京芝で国酒を造る!

～ 100年の時を超えて復活『東京港醸造』～

講師：齊藤 俊一氏、寺澤 善実氏

レポート：セミナープログラム 川村 祥二

【セミナー概要】

□開催期日：2018年10月14日(日) 15:30～16:30

□タイトル：『東京芝で国酒を造る!』

～ 100年の時を超えて復活『東京港醸造』～

□講師：①齊藤 俊一氏 ②寺澤 善実氏

□講師のプロフィールおよび略歴：

①齊藤 俊一氏：株式会社若松 代表取締役

- ・昭和53年 (株)若松入社
- ・平成03年 代表取締役(雑貨小売部門の多店舗展開を開始)
- ・平成23年7月 酒造業を開設(濁酒・リキュール酒)製造開始
- ・平成28年7月 清酒免許取得
- ・平成29年5月 (財)港区観光協会役員に就任 現在に至る

②寺澤 善実氏：株式会社若松 取締役 杜氏

- ・昭和54年3月 黄桜酒造株式会社入社

- ・平成12年4月 黄桜酒造「台場醸造所」醸造責任者
- ・平成26年4月 株式会社若松 に杜氏として入社
- ・平成27年10月 株式会社若松 取締役杜氏に就任 現在に至る



【はじめに】

「東京港醸造」の母体である若松屋は、文化9年(1812)

■PMI Japan Festa 2018 セミナーレポート

に創業、薩摩藩御用商人として栄えた造り酒屋でしたが、明治42年（1909）に酒造りを廃業。以降、雑貨業を営んでいましたが、7代目蔵元である齊藤俊一氏が、「自分の代で何とか家業の酒造りの歴史を復活したい」と、酒蔵復活プロジェクトを立ち上げました。

一方、寺澤善実氏は、京都の大手酒造メーカーで20年間経験を積んだ後、東京都港区台場に出展された醸造所の責任者として、立ち上げから担当。わずか52㎡という小さなスペースでの酒造りの経験により、効率的な醸造のノウハウを確立しました。

『マイクロブリュワリーの経験』を持つ寺澤氏と、『一度廃業した酒造りを復活させたい』という齊藤氏が出会い、酒蔵復活に向けて走り出し、平成28年7月に清酒製造免許を取得するまでの苦労連続のプロジェクトについて、紹介いただきました。

【講演内容】

江戸時代から日本酒を造っていた若松屋を、100年間ぶりに復活させようと立ち上がった7代目の齊藤俊一さん、ミニブリュワリーでの小規模な酒造りをライフワークとされている寺澤善実さん、このお二人が会うことがなければ実現しなかったプロジェクトは、普段のセミナーでは耳にすることができない、文字通り「Festaならではの」企画だと感じています。

お二人は、酒造りに必要な水と米は「東京都内で生産されたもの」だけを使用。また、朝搾ったお酒を夕方には近隣でふるまうことができる「都心での生産」にこだわってこられました。それを実現するために、自ら生産量の少ない都内産

のお米を探して農家を周られたご苦労、試行錯誤を繰り返し芝4丁目のビルという特異な環境を逆手に取り、上階から下階へ工程が流れるプラント造りなど、数々のハードルを乗り越えられてきた並々ならない熱意を感じました。

普段何気なく飲んでいる日本酒の製造免許を取得するには、安定した製造技術を確立することだけでなく、一定レベル以上の製造量を確保する設備や継続的に生産可能であることを証明すること等が必要とのこと。通常のビジネスを始めるのとは異なり、継続的に清酒造りをやり続ける経営者としての覚悟が必要で、単純に情熱だけでは乗り越えられないものであることもよく理解できました。

今回の講演は、プロジェクトを成功に導くためには、PMとして何をなすべきか？というノウハウ的な内容が少なかつたため、参加者の中には物足りなさを感じた方もいたと思われます。しかし、目指したことを実現させるためには、それを成し遂げたいという情熱が何よりも重要であることを改めて共感していただけたと思います。

講演後には、両氏の努力の成果である「江戸開城」を片手に、西郷隆盛や勝海舟が東京湾の波音に耳を傾けたように、ビルの谷間を行きかう車の音をバックに杯を傾けたい！と思ったのは、私だけではなかったでしょう。

【講師担当余話】

お二人に講演をお願いしたのは、実は今回が初めてではありません。昨年のFestaでもチャレンジしたのですが、その時点では「清酒免許を取得したばかりで、講演している余裕など無いくらい忙しい」との理由で断られたため、今回が二度目のチャレンジでした。



■PMI Japan Festa 2018 セミナーレポート

お二人で講演していただくことが決まり、打ち合わせを重ねるたびに、講演に対するお二人の情熱がどんどん高まっていき、一時間では終わらないのではないかと感じていました。それと同時に、「芝で国酒を復活させる」という、ご自身の強い思いを語ることに終始し、プロジェクトの壁をどのように乗り越えられたかなどの点について、Festa参加者が共有できる内容になるか、正直不安でした。

しかし、その心配は杞憂に終わりました。酒類鑑評会で金賞を受賞するほどの「国酒」を製造できる技術と設備を構築できたこと自体がプロジェクトマネジメントの成功例であり、参加者の方々はそこに至るお二人の経験を十分共感できたと実感しています。「お二人に引き受けていただき本当によかった」と改めて感じています。

Activities / 支部活動

PMI日本支部創立20周年記念イベント

20周年記念イベント・プロジェクト

担当理事 森田 公至

20周年記念イベントとして、5月20日の記念セミナーに続いて、「ゴルフ・コンペ」、「バーベキュー大会」、「アクティブ・メンバー・パーティー」を実施しました。

今までにないイベントを通じて、個人会員、法人スポンサー、ご家族を含めたコミュニケーションの場を提供するこ

とができ、参加いただいた皆さまには高い評価をいただきました。今後もボランティア活動の活性化を図れるようなさまざまな企画を検討していきたいと考えていますので、引き続き支部へのご支援を何卒よろしくお願ひ申し上げます。

2018年9月22日(土)開催

■ ゴルフ・コンペ

担当 森田 公至

ゴルフ・コンペを小見川東急ゴルフクラブ（千葉県）にて開催しました。支部主催のゴルフ・コンペは創立以来20年で初めての試みでしたが、法人スポンサーの方々、個人会員の方、理事など15名（4組）で開催しました。普段、なかなか一緒することがないメンバーとゴルフを通じてとても良いコミュニケーションを図り、支部への期待やアドバイスも頂戴することができました。また、支部の部会活動は行わ

れていない個人会員の方にも参加いただき、日本支部をご理解いただけたのではないかと思います。このイベントが確定してから、ゴルフを練習し初めたという理事もいて、とてもアットホームなコンペとなりました。来年以降も引き続き開催してほしいというお声も頂戴しており、検討していきたいと考えております。



ゴルフ・コンペの参加者

Activities / 支部活動

■PMI日本支部創立20周年記念イベント

2018年11月10日(土)

■バーベキュー大会

担当ボランティア（リーダー） 柴田 康広

バーベキュー大会は、都内からのアクセスを考慮し、東京江東区の若洲海浜公園キャンプ場にて開催しました。11月に入ってからの屋外イベントなので寒さを懸念していましたが、当日は天候にも恵まれ、最高気温23℃と腕まくりする方も居るような陽気の中、おかげ様でご家族の方を含めて総勢43名が参加され一日を楽しく過ごすことが出来ました。

会員のご家族を含めたイベントは初めてのことでしたが、ボランティアのみでなく参加者が皆で一緒に準備を行う中、自然にコミュニケーションが生まれ、日本支部の活動が多く、の会員やその家族の支援で成り立っているということを実感する場となりました。



バーベキュー大会の参加者



ご家族の参加



大活躍のボランティア

Activities / 支部活動

■PMI日本支部創立20周年記念イベント

2018年12月1日(土)

■アクティブ・メンバー・パーティー

担当ボランティア（リーダー） 若山 恭一

20周年記念イベントの最後はアクティブ・メンバー・パーティーでした。日々、支部を支えていただいている部会メンバーを対象に、部会の枠を超えたコミュニケーションができる場の提供と感謝の気持ちを込めて開催したもので、63名の方々にご参加いただきました。齊藤理事からは20周年記念出版の報告があり、参加者全員に「タレント・トライアングル」を謹呈させていただきました。

一番盛り上がったのはビンゴゲームでした。ビンゴの景品は支部より感謝の気持ちをお伝えするために準備した、20種類の「豪華」景品でした。ビンゴ+くじ引きという2段階だったため、最後の最後まで盛り上がりました。「来年も開催して！」という声を多くありましたので、PMコミュニティ活性化委員会にて検討していくようお願いしています。



「豪華」賞品A



「豪華」賞品B



アクティブ・メンバー・パーティーの参加者

PMI日本支部創立20周年記念出版

■書籍「タレント・トライアングル」発刊！ 今後求められるPMスキルの「道しるべ」として是非お読みください！

20周年 記念出版プロジェクト
担当理事 齊藤 学

創立20周年記念事業記念出版プロジェクトの成果として、書籍「タレント・トライアングル」が刊行されてから約二か月が経ちました。

「創立20周年を記念し、未来志向のオピニオンを支部として発信できないか？」そこから始まったこのプロジェクト。刊行後はその内容を関係者の方々にお届けする、潜在的なPMニーズがある方々に広く知っていただく、そして社会・産業においてますます拡大するPMの適用可能性と、国内最大のPM専門家コミュニティであるPMI日本支部の魅力を広く伝えたい。そうした活動を展開中です。

創立20周年記念事業としては今年で終了しますが、私が担当する組織拡大委員会がそのミッションを引き継ぎ、本書をご紹介する活動を来年以降も行っていく予定です。

本書ではPMI本部が情報発信を強める「Disruptive innovation」への対応とこれからのPMに求められるスキルセットの枠組みである「PMI Talent triangle®」を柱とし、約30名の支部アクティブメンバーがそれぞれの知見・専門性を基に、PMI発行の標準や調査レポートなどの関連資料を読み解き、そのエッセンスを凝縮したオピニオン集です。

その内容を改めて簡単にご紹介します。

- 1章では「デジタル・ディスラプション」をキーワードにプロジェクトマネジメントへの期待の変化や今後のあ



り方、そして「PMI タレント・トライアングル™」が示すスキルセットと示す今後のプロジェクト・マネジャー像を解説

- 2章では「戦略的およびビジネスのマネジメント」をテーマにBRM (Benefits Realization Management) やEPMO (Enterprise PMO) といった最新トレンドを考えるうえで必要なビジネスナレッジを解説
- 3章では「テクニカル・プロジェクトマネジメント」をテーマに、PMBOK®をはじめとするPMIの各種標準、調査レポートを読み解き、アジャイルやPPPM (Project, Program, and Portfolio Management) にまで拡張する際の実践的ナレッジを解説
- 4章は「リーダーシップ」をテーマに、プロジェクトマネジメント・リーダーシップに対する要求の変化のトレンドや「チェンジマネジメント」、「サーバントリーダーシップ」に関する実践ナレッジを解説
- 最後の5章では、まとめとしてプロジェクトマネジメント力向上のためのタレント・トライアングルの活用について改めて説明



推敲会議



書店に並んだ
「タレント・トライアングル」

■ PMI日本支部創立20周年記念出版

本書は執筆者の多種多様な視点・考え方を大切にしつつ、それをひとつの「書籍」という形にさせていただきました。私としては本を作ることが終わりではなく、むしろ本書の刊

行をきっかけに「これからのプロジェクト・マネジャーに求められるもの」をみなさんとこれから一緒に考えることこそ本来の目的だと思っています。



献本させていただいた方々

PMI日本支部リーダーシップ・ミーティングLM2018

PMコミュニティ活性化委員会 委員長 福本 伸昭
LM2018運営チーム・リーダー 伊熊 昭等

2018年9月1日(土)と2日(日)の2日間、東京都調布市にあるNTT中央研修センターを会場に「PMI日本支部リーダーシップ・ミーティングLM2018」が開催されましたのでご報告いたします。

■ リーダーシップ・ミーティング (LM) とは

今年で4回目になるこの会議は、戦略委員会のひとつ、PMコミュニティ活性化委員会(委員長 福本伸昭理事)が中心となって企画しています。PMI日本支部の各部会(委員会、研究会、ブランチ、プログラム)から、リーダーやアクティブメンバーを派遣いただき、今後のPMI本部や日本支部のビジョンや方向性、施策などを共有したり、参加者のリーダーシップ育成を目指したワークショップを行ったりすることで、よりアクティブな部会活動を促し、PMコミュニティを活性化させるのが目的です。

PMI本部で行われているLIM (Leadership Institute Meeting) を参考にしていますが、日本のPMコミュニティの特徴を生かした独特の設計をしています。というのも、PMI日本支部は、他国の通常のチャプターとは異なり、4,500名以上の会員を有するカントリー・チャプターであり、さまざまな分野の部会活動が日々活発に行われています。しかし、大きな組織であるがゆえに、大量の情報を共有して方向性を合わせていくのは容易ではありません。そこで本部のLIMのようなパラレルセッションは行わずに、全員が同じテーマで情報共有し、お互いに理解しあってレベルアップするように企画しています。

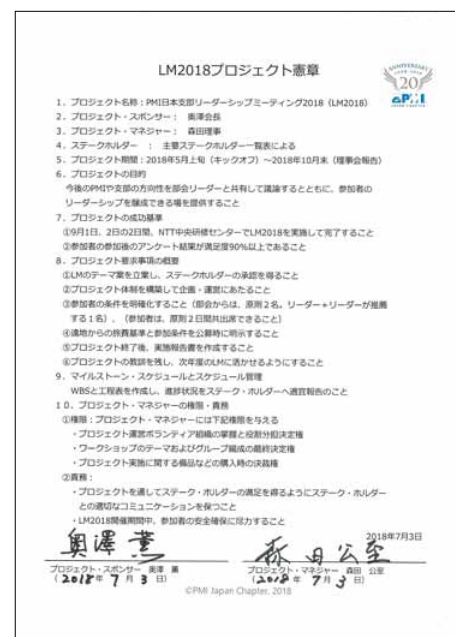
過去を振り返ってみると、初回のLM2015は、アイデア創出の思考能力を鍛えるテーマで、システム×デザイン思考のワークショップを実施、第2回のLM2016は、部会運営の悩みを共有し合って解決策を考える問題解決手法のワークショップを行っています。また、第3回のLM2017はその続編にあたり、組織が進むべき方向をしっかりと定めるための

ロジックモデルを学ぶワークショップが行われました。

そして、今年のテーマは「プロジェクト・マネジャー (PM) のキャリア形成上の課題」です。PMI本部の顧客セグメントと戦略の変更を理解した上で、米国とは異なる日本のPMセグメントのプロフィールを明らかにし、各セグメントが抱えるキャリア形成上の課題と、その解決策、支援策・サービスを考えようとするものです。簡単ではないテーマでしたが、グループ討議は例年にも増して活発に行われ、充実した結果を得ることができました。

■ 開催準備

LM2018開催に向けて、今回は「LM2018プロジェクト憲章」を作成しました。この中で森田公至理事がプロジェクト・マネジャーに任命され、目的やPMの権限・責務を明確化にするとともに参加者の参加後のアンケート結果が「満足度90%以上であること」をLM2018プロジェクトの成功基準としました。



LM2018プロジェクト憲章

Activities / 支部活動

■PMI日本支部リーダーシップ・ミーティングLM2018

LM2018開催の準備・運営の企画にあたっては、LM2015～LM2017運営を経験した伊熊昭等、吉田謙一氏、松本弘明氏、十返文子氏、河々谷健一氏、杉原卓朗氏に加えて、新たなメンバーとして、折口長雄氏、坂本健太郎氏、中本妙華氏、田中真琴氏の11名から構成する強力な「LM2018運営チーム」を結成しました。6月のキックオフミーティング後チームを立ち上げてから開催までわずか3カ月の短い期間でしたが、伊熊リーダーを中心としたメンバーの献身的な努力と、PMI日本支部の吉田一弥事務局長、西山かおり事務局長ほかのご尽力もあって、開催にこぎつけました。

実際の議論にあたっては、今後のPMIや支部の方向性を共有するとともに、参加者のリーダーシップを育成する場を提供するという目的を達成するために、支部のすべての委員会および研究会から2名ずつの参加をお願いし、最終的には、PMIアジア・パシフィック3人、会長・理事・監事15名、部会メンバー52人（内、運営チーム12名）、事務局2名の計72名が参加し、2日間にわたって熱い議論が展開されました。今年も2日間参加を原則として全員宿泊することになりました。

■開催概要（1日目）

具体的な開催内容についてご報告いたします。

奥澤会長の挨拶で開幕。PMI Global Updatesとして、シンガポールから来られたSoHyun Kangさん（PMI-AP）によるスピーチは英語によるものでしたが、PMI Transformation Journey などを含めわかりやすいプレゼンテーションでした。次に、「デジタル・トランスフォーメーションを加速する先進技術の導入・活用に向けて」と題して端山副会長よりJISA（情報サービス産業協会）先進技術実践委員会での内容をベースに、デジタル・トランスフォーメーションにおいてどこに注目すべきであるかなどをご説明いただきました。

午後からは片江副会長よりPMI EMIAのLIM（欧州・中東・アフリカ地域でのLeadership Institute Meeting）のフィードバックがあり、その流れでワークショップに入りました。初日のワークショップは、参加者に事前に準備していただいたCareer Journeyを使ったアイスブレイクから始まり、今後PMI日本支部に必要なセグメンテーションは何かをブレンス・ストーミング形式で議論するものでした。

その結果を基に、PMの以下の6個のセグメントに対して、



ワークショップ



セグメント討議の中間発表

「キャリア形成上の課題の抽出」を行いました。

- ①シニアPM ②IT企業PM ③教育・学生 ④スタートアップ企業PM ⑤ユーザー企業PM ⑥ダイバーシティPM

夕食は、昨年好評であった「ケータリング方式」を今年も採用して内容もさらに豪華となり皆様に満足していただけたものと思います。その後の楽しい懇親会（二次会）では、参加者の有志が持参した飲食物で深夜まで活発なネット・ワーキングが行われました。部会間の交流促進を目的に宿泊形態をとっているLMの思惑通りとなりました。



懇親会

■開催概要（2日目）グループ討議と成果発表

2日目の冒頭は、PMO研究会代表の田島悠史氏より、2017年11月に参加された北米開催の「PMOシンポジウム」

Activities / 支部活動

■PMI日本支部リーダーシップ・ミーティングLM2018

のフィードバックをいただき、エンタープライズPMOやアジリティについて理解が深まりました。

その後6種類のPMセグメントについて、それぞれのグループで課題認識と解決策を議論し、定義された解決策を説明するための成果物を作成していただきました。

2日目の締めくくりは、各グループのプレゼンテーションと質疑応答です。制限時間内でグループの成果をアピールするために知恵と工夫を凝らした熱のこもったプレゼンテーションが行われ、多くの質問やコメントで大変盛り上がりました。

今年は、福本委員長、森田PM、伊熊リーダーが審査委員となり、骨子、ストーリー性、実現可能性も含め最も優れたプレゼンテーションであった「A：シニアPM」に最優秀賞が贈られました。

解散式では、端山副会長の全体講評があり、全員で記念撮影を行いました。

これらの議論が来年度の各部会の活動計画に反映されるとともにPMI日本支部のミッション員会に引き継がれ中期計画遂行のための材料になることが期待されます。



グループ討議



プレゼンテーション



最優秀賞の授与



LM2018参加者

■PMI日本支部リーダーシップ・ミーティングLM2018

■LM2018の効果

LM2018の効果について、組織活性化の観点と、個人のスキル向上の観点の2点に大別してまとめます。

1. 情報共有によるPMコミュニティの活性化

PMI本部や日本支部の活動の方向性がオープンになり、会長・理事・部会リーダー・アクティブメンバーが一緒になってコミュニケーションする場を持つことで、アクティブメンバーにとってのボランティア活動の価値がより深く理解され、モチベーションの向上につながり、日本支部での活動が活発化する効果が期待されます。

2. 個人のリーダーシップスキル向上

LMでPMI日本支部活動に必要なセグメンテーションを議論し、解決策を定義するというワークショップに参加することで、部会の中でのリーダーシップ発揮に役立つだけでなく、各自の実務におけるプロジェクトマネジメント実践にも役立つスキルを習得できます。過去3年は、アイデア創出の思考能力開発、問題解決手法の習得、ビジョンと活動をつなぐロジックの構築とベネフィットのKPI設定などを学びましたが、今回はそれらを総合的に活用して解決策を定義するリーダーシップの実践の場となっています。また学んだことを部会活動に適用できるように、希望する部会にはフォローアップをするようにしています。

■最後に

日本支部として4回目となるLM2018は、これまでの経験も生かされ、運営チームと事務局のチームワークも良く、想定外の事態にも臨機応変の素早い対応ができ、2日間の大イベントを成功裡に終了することができました。参加いただいた部会リーダー・アクティブメンバーの方々へのアンケート結果からも、高い満足度をいただいています。

冒頭で述べたように、他のチャプターでは例を見ない日本支部独特のLMは、日本支部のPMコミュニティをより一層活性化させ、毎年恒例のイベントとして定着化しました。アンケート結果をもとに、次年度に向けてさらなる改善を検討していきたいと思います。

参加された皆様、およびご協力くださったボランティアメンバーやスタッフの皆様にも、この場を借りて心から感謝を申し上げます。



LM2018運営チームのミーティング

PM Calendar / PM カレンダー

PMI日本支部のイベントならびにPM教育関連セミナーなどの案内です。
詳しくは、PMI日本支部のWebサイトをご参照ください。

【ホームページにて公開中】

PMI日本支部関連セミナー

● ケースメソッド研修推進者 育成プログラム (2019年1・2・3月開催)

- 日時：1月10日・2月7日・3月6日 9:30～17:30
- 場所：PMI日本支部セミナールーム
- 6.5PDU、ITC実践力ポイント6.5時間分

● 新春特別セミナー 「チームの能力を発揮する スタンフォード式疲労回復メソッド」

- 日時：2019年1月26日(土) 15:00～17:00
- 場所：AP虎ノ門(港区西新橋)
- 2PDU、ITC実践力ポイント2時間分

● アジャイルプロジェクトマネジメント基礎

- 日時：2月12日(火) 9:30～18:00
- 場所：PMI日本支部セミナールーム
- 7PDU、ITC実践力ポイント7時間分

● 変革をリードする次世代リーダーシップ即戦力アップ

- 日時：1月29日(火) 9:30～18:00
- 場所：PMI日本支部セミナールーム
- 7PDU、ITC実践力ポイント7時間分

● デザイン思考実践 (2日間)

～顧客経験(CX)からの革新商品&サービス開発～

- 日時：1月31日(木)・2月1日(金) 9:30～18:00
- 場所：PMI日本支部セミナールーム
- 14PDU、ITC実践力ポイント14時間分

● デザイン思考基礎 ～優れた顧客経験(CX)を提供する～

- 日時：2月19日(火) 9:30～18:00
- 場所：PMI日本支部セミナールーム
- 7PDU、ITC実践力ポイント7時間分

PMI日本支部関連イベント(予定)

● PMI日本フォーラム 2019

- 日時：2019年7月20日(土)・21日(日)
- 場所：学術総合センター(一橋記念講堂)

● PMI Japan Festa 2019

- 日時：2019年11月23日(土)・24日(日)
- 場所：慶應義塾大学日吉キャンパス 協生館

【月例セミナー開催について】

2019年度の月例セミナーは、下記の日程で渋谷にて行います。

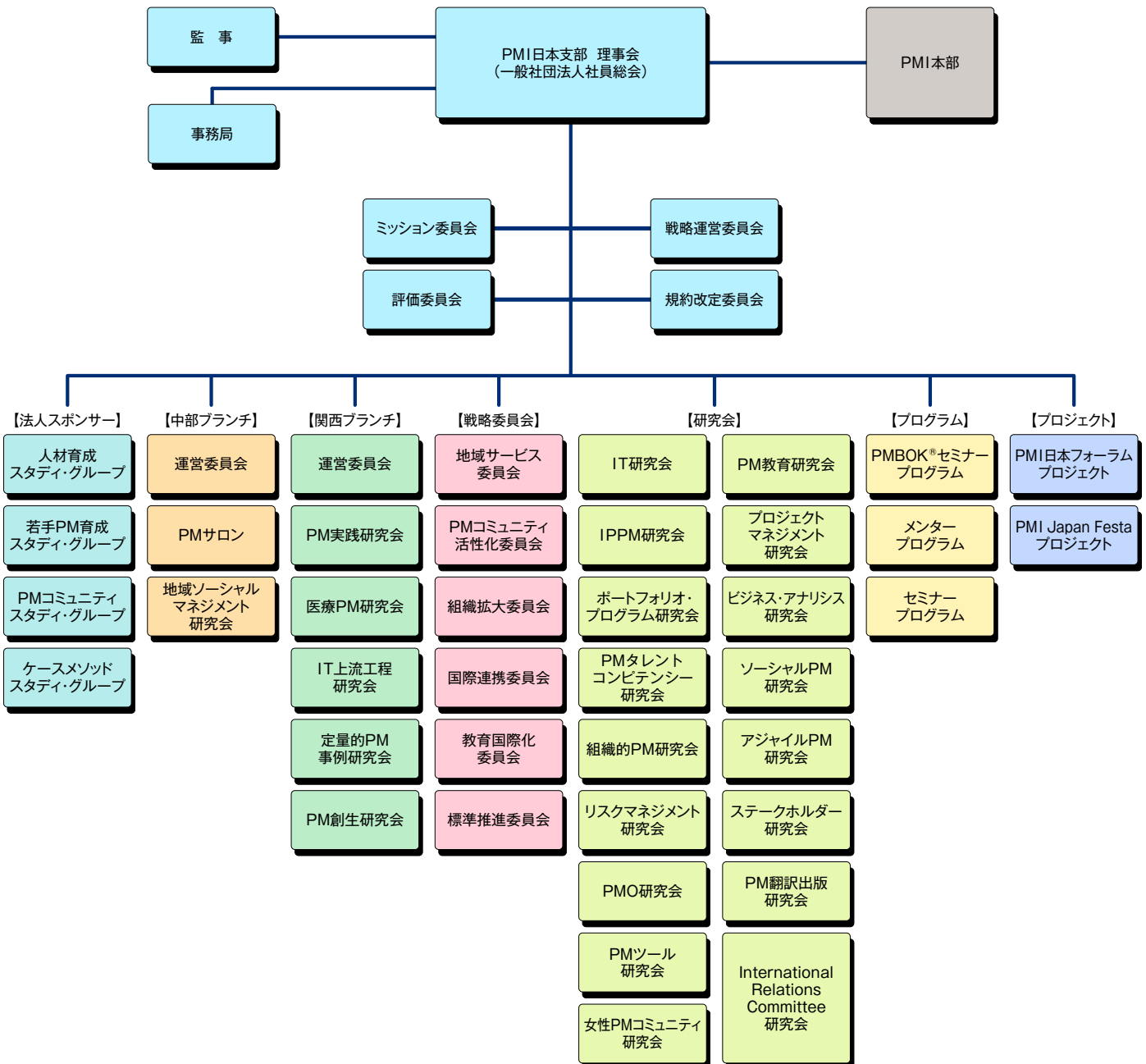
【日程(予定)】	(2019年1月26日(土) 新春特別セミナー)		
	① 2019年2月15日(金)	④ 2019年5月17日(金)	⑦ 2019年9月13日(金)
	② 2019年3月15日(金)	⑤ 2019年6月21日(金)	⑧ 2019年12月11日(水)
	③ 2019年4月19日(金)	⑥ 2019年8月7日(水)	
【場 所】	アクセス渋谷フォーラム		
(新春特別セミナーを除く)	東京都渋谷区渋谷2-15-1 渋谷クロスタワー 24階		
	東京メトロ銀座線、半蔵門線、副都心線 「渋谷」駅 15番出口から徒歩3分		

*なお、イベント、セミナー、コースなどは、諸般の事情により変更または中止される場合があります。
PMI日本支部ホームページで確認をお願いいたします。(https://www.pmi-japan.org/event/)

Fact Database / データベース

PMI日本支部やPMP®資格取得者に関する最新情報をお届けします。

■ 支部活動 (2018年12月現在)



■理事一覧 (2018年12月現在)

会長 ^(※)	: 奥澤 薫 (KOLABO)
副会長 (地域サービス委員会 [※])	: 浦田有佳里 (TIS株式会社)
副会長 ^(※)	: 片江有利 (株式会社システムコストマネジメント)
副会長 ^(※)	: 端山 毅 (株式会社NTTデータ)

※規約改定・評価・ミッション・戦略運営の4委員会を兼務

(以下、五十音順)

理事 (組織拡大委員会)	: 麻生重樹 (日本電気株式会社)
理事 (ミッション委員会)	: 池田修一 (株式会社ポジティブ・ラーニング)
理事 (教育国際化委員会)	: 伊藤 衡 (慶応大学大学院)
理事 (教育国際化委員会)	: 井上雅裕 (芝浦工業大学)
理事 (ミッション委員会)	: 岩岡泰夫 (株式会社国際開発センター)
理事 (地域サービス委員会)	: 木南浩司 (株式会社マネジメントソリューションズ)
理事 (組織拡大委員会)	: 斉藤 学 (スカイライト コンサルティング株式会社)
理事 (標準推進委員会)	: 鈴木安而 (PMアソシエイツ株式会社)
理事 (国際連携委員会)	: 武上弥尋 (日本アイ・ビー・エム株式会社)
理事 (標準推進委員会)	: 中嶋秀隆 (プラネット株式会社)
理事 (コミュニティ活性化委員会)	: 福本伸昭 (日本アイ・ビー・エム株式会社)
理事 (財政担当)	: 三嶋良武 (株式会社三菱総合研究所)
理事 (組織拡大委員会)	: 水井悦子 (日本アイ・ビー・エム株式会社)
理事 (コミュニティ活性化委員会/戦略運営委員会)	: 森田公至 (日本アイ・ビー・エム株式会社)
理事 (教育国際化委員会)	: 除村健俊 (芝浦工業大学)
理事 (組織拡大委員会)	: 渡辺哲也 (株式会社日立インフォメーションアカデミー)
監事	: 神庭弘年 (神庭PM研究所)
監事	: 平石謙治 (ビー・ティー・ジー・インタナショナル)
監事	: 渡辺善子 (株式会社日本政策金融公庫)
顧問 (地域サービス委員会)	: 木下雅裕 (ニッセイ情報テクノロジー株式会社)
顧問 (国際連携委員会)	: 杉村宗泰 (日本マイクロソフト株式会社)
顧問 (コミュニティ活性化委員会)	: 高橋正憲 (PMプロ有限会社)

■最新の会員・資格者情報 (2018年10月31日現在)

会員数		資格保有者数								
		PMP [®]		PMI-SP [®]	PMI-RMP [®]	PgMP [®]	PMI-ACP [®]	PfMP [®]	PMI-PBA [®]	CAPM [®]
PMI本部	日本支部	世界全体	日本在住	日本在住	日本在住	日本在住	日本在住	日本在住	日本在住	日本在住
553,150人	4,534人	887,937人	36,263人	4人	8人	7人	56人	3人	10人	140人

■行政スポンサー (2018年12月現在)

- 三重県 桑名市
- 滋賀県 大津市

■法人スポンサー 一覧 (109社、順不同、2018年12月現在)

- TIS株式会社
- 日本アイ・ビー・エム株式会社
- 株式会社NSD
- 株式会社インテック
- キヤノンITソリューションズ株式会社
- 日本電気株式会社
- 株式会社ジェーエムエーシステムズ
- アイアンドエルソフトウェア株式会社
- 株式会社NTTデータ
- プラネット株式会社
- 株式会社建設技術研究所
- 日本ユニカシステムズ株式会社
- 株式会社クレスコ
- ラーニング・ツリー・インターナショナル株式会社
- 日本ビューレット・パッカード株式会社
- 株式会社アイ・ティー・ワン
- コンピューターサイエンス株式会社
- 株式会社タリアセンコンサルティング
- TDCソフト株式会社
- 株式会社大塚商会
- 日本プロセス株式会社
- 株式会社NTTデータ関西
- 日本ユニシス株式会社
- Kepner-Tregoe Japan, LLC.
- JBCC株式会社
- 株式会社富士ゼロックス総合教育研究所
- 日本アイ・ビー・エム・ビズインテック株式会社
- 株式会社アイテック
- 株式会社エヌ・ティ・ティ・データ・フロンティア
- 株式会社日立インフォメーションアカデミー
- 情報技術開発株式会社
- アイシンク株式会社
- 三菱総研DCS株式会社
- ソニーセミコンダクタソリューションズ株式会社
- 東芝テック株式会社
- 三菱スペース・ソフトウェア株式会社
- 株式会社三菱総合研究所
- NTTデータアイ株式会社
- 新日鉄住金ソリューションズ株式会社
- 株式会社日立ソリューションズ
- 日本自動化開発株式会社
- 日揮株式会社
- 株式会社野村総合研究所
- 株式会社アイ・ティ・イノベーション
- NECネクサソリューションズ株式会社
- 株式会社JSOL
- ニッセイ情報テクノロジー株式会社
- 株式会社リコー
- 株式会社システム情報
- 住友電工情報システム株式会社
- 株式会社エヌ・ティ・ティ・データ・ユニバーシティ
- 株式会社マネジメントソリューションズ
- NDIソリューションズ株式会社
- 株式会社日立製作所
- 株式会社システムインテグレータ
- 日本ビジネスシステムズ株式会社
- コベルコシステム株式会社
- 日本電子計算株式会社
- 富士電機株式会社
- 株式会社日立システムズ
- 株式会社神戸製鋼所
- 日本証券テクノロジー株式会社
- クオリカ株式会社
- 株式会社エクサ
- 株式会社ラック
- 三菱電機株式会社
- TAC株式会社
- 日本情報通信株式会社
- 株式会社日立社会情報サービス
- 株式会社シグマクシス
- 株式会社TRADECREATE
- 株式会社日本ウィルテックソリューション
- システムスクエア株式会社
- 株式会社アイ・ラーニング
- 株式会社トヨタコミュニケーションシステム
- 東芝インフォメーションシステムズ株式会社
- 株式会社ワコム
- 株式会社HGSTジャパン
- NCS & A株式会社
- 日本システムウエア株式会社
- 日立物流ソフトウェア株式会社
- SCSK株式会社

- 株式会社東レシステムセンター
- ビジネステクノクラフツ株式会社
- 株式会社シティアスコム
- SOMPOシステムズ株式会社
- 株式会社エル・ティー・エス
- 株式会社日立産業制御ソリューションズ
- MS & ADシステムズ株式会社
- 日本クイント株式会社
- リコージャパン株式会社
- 株式会社HS情報システムズ
- 株式会社アジャイルウェア
- ソフトバンク・テクノロジー株式会社
- 株式会社インテジテクノスフィア
- 株式会社ネクストスケープ
- セブンスカイズ株式会社
- 関電システムソリューションズ株式会社
- 伊藤忠テクノソリューションズ株式会社
- 株式会社オーシャン・コンサルティング
- 株式会社リクルートテクノロジーズ
- アクシスインターナショナル株式会社
- 株式会社ネットラーニング
- JFEシステムズ株式会社
- アドソル日進株式会社
- 東洋ビジネスエンジニアリング株式会社
- 富士ゼロックス株式会社
- 大日本印刷株式会社
- 株式会社ビジネスコンサルタント

■アカデミック・スポンサー 一覧 (47教育機関、登録順、2018年12月現在)

- 産業技術大学院大学
- 慶應義塾大学 大学院システムデザイン・マネジメント研究科
- サイバー大学
- 芝浦工業大学
- 金沢工業大学
- 九州大学大学院芸術工学府デザインストラテジー専攻
- 広島修道大学経済科学部
- 北海道大学 大学院情報科学研究科
- 山口大学大学院技術経営研究科
- 筑波大学大学院システム情報工学研究科 コンピュータサイエンス専攻
- 早稲田大学 ビジネススクール
- 早稲田大学 理工学術院 基幹理工学部 情報理工学科
- 公立大学法人 広島市立大学 情報科学部
- 国立高等専門学校機構 仙台高等専門学校
- 北海道大学 サステイナビリティ学教育研究センター
- 大阪大学 大学院工学研究科 ビジネスエンジニアリング専攻
- 愛媛大学工学部および大学院理工学研究科工学系
- 国立高等専門学校機構 八戸工業高等専門学校
- 学校法人中部大学 経営情報学部
- 京都光華女子大学
- 鹿児島大学産学連携推進センター
- 中央大学 文学部社会情報学専攻
- 千葉工業大学 社会システム科学部 プロジェクトマネジメント学科
- 京都工芸繊維大学 ものづくり教育研究支援センター
- 東京工科大学大学院 コンピュータサイエンス専攻
- 北海道情報大学
- 山口大学工学部知能情報工学科
- 川崎医療福祉大学医療福祉マネジメント学部 医療秘書学科および大学院医療秘書学専攻
- 青山学院大学 国際マネジメント研究科
- 公立大学法人 公立はこだて未来大学
- 大阪府立大学 21世紀科学研究機構 産学協同高度人材育成センター
- 慶應義塾大学・理工学部・管理工学科・飯島研究室
- 就実大学 経営学部
- 神戸女子大学 家政学部 家政学科
- 明石工業高等専門学校 建築学科 大塚研究室
- サレジオ工業高等専門学校 一般教育科 物理教育学研究室
- 北陸先端科学技術大学院大学 知識マネジメント領域
- 中京大学 情報センター
- 法政大学専門職大学院イノベーション・マネジメント研究科
- 札幌学院大学
- 国立研究開発法人 理化学研究所 多細胞システム形成研究センター
- 岡山大学 教育研究プロジェクト戦略本部 戦略プログラム支援ユニット (URA)
- 香川大学大学院 地域マネジメント研究科 中村研究室
- 明治大学 経営学部 鈴木研一研究室
- 中京大学 経営学部 齊藤毅研究室
- 独立行政法人国立高等専門学校機構舞鶴工業高等専門学校
- 愛媛大学 教育・学生支援機構学生支援センター 丸山智子研究室

Editor's Note / 編集後記

執筆者の皆さまへ。お忙しいところ、ご協力いただきありがとうございました。

- 支部創立20周年記念イベントとして実施した「ゴルフ・コンペ」、「バーベキュー大会」、「アクティブ・メンバー・パーティー」を、また、20周年記念出版プロジェクトとして10月に刊行した書籍「タレント・トライアングル」について、それぞれご紹介しました。
- 去る10月13日・14日に延べ740余名の方々に参加いただき、盛況裡に終了した「PMI Japan Festa 2018」。全国向け同時中継システムも定着し好評をいただきました。交流会ではプロの演奏家によるおもてなしも加わり華やかさが増しました。今号では講演の概要をご報告しました。
- 日本支部の部会活動紹介シリーズ。今号は、関西ランチ特集となり、『定量的プロジェクトマネジメント事例研究会』、『IT上流工程研究会』、『医療プロジェクトマネジメント研究会』、『プロジェクトマネジメント創生研究会』の4部会です。
- 今年で4回目となるPMI日本支部リーダーシップミーティングLM2018の概要を報告しました。今年のテーマは「プロジェクト・マネジャーのキャリア形成上の課題」。例年にも増して活発に議論が行われました。

2018年の「今年の漢字」は『災』。1月の関東での大雪に始まり、北海道胆振東部地震、大阪府北部地震、島根県西部地震、西日本豪雨、台風21号・24号の直撃、記録的猛暑など、例年にない規模の自然「災」害が多発し日本各地で犠牲者を出し人々の生活を脅かしました。避けて通れない自然の猛威ですが、来年の安寧を祈るばかりです。

今年支部設立20周年事業を色々な形で展開しました。25周年、30周年に向けて皆さまと共に前に進んでいきますので、これからもよろしくお願ひ致します。

ニュースレター編集担当から読者の皆様へお願い

ニュースレターは、皆さまからの書評、論評、トピックス、セミナー受講レポート、プロジェクト体験記、PMP認定試験受験体験記などを募集しています。お気軽にPMI日本支部事務局宛てにお送りください。

PMI日本支部ニュースレター Vol.77 2018年12月発行

編集・発行：PMI日本支部 事務局
 〒103-0008 東京都中央区日本橋中洲3-15 センタービル3階
 TEL：03-5847-7301 FAX：03-3664-9833
 E-mail：info@pmi-japan.org
 ホームページ：https://www.pmi-japan.org/

(非売品)